クラシック音楽の楽しみ方　　第 16 回

会員　高橋　善彦

音楽はいろいろな国で演奏されますので、楽器の名前も各国で様々です。間違えやすい楽器の名前がありますので、今回は**楽器の名前**についての話です。

1. ビオラとトロンボーン

ドイツ語でビオラ(Viola)はBratscheです。イタリア語で「腕に抱える」弦楽器をviola da braccioと呼び、「脚に挟む」弦楽器をviola da gamba と呼んでいました。ドイツにはBratscheとGambeの名で伝わり、弦楽器の歴史の中でBratscheが生き残ります。ちなみに、フランス語でビオラはアルト(Alto)です。

ドイツ語でトロンボーン(Trombone)はPosauneです。Posauneという言葉の由来は明確ではありません。12世紀初期、金管をブイジーヌ(古仏語 buisine)と呼び、この言葉が語源ではないかとされています。

2. 木管楽器　ピッコロとオーボエ

英語	独語	仏語	伊語
piccolo	Kleine Flöte	petite flûte	ottavino
flute	Flöte	flûte traversière	flauto traverso
oboe	Oboe	hautbois	oboe
clarinet	Klarinette	clarinette	clarinetto
bassoon	Fagott	basson	fagotto

ピッコロは各国で様々です。伊語のottavinoはオクターブ高いという意味です。オーボエは仏語だけHautboisとHから始まりますが、発音は”オーボワ”となります。

3. トランペットとクラリネット

トランペットは英語でTrumpet, 独語でTrompete, 伊語でTromba (複:Trombe)、仏語でtrompette です。

楽器の名前に<u>演奏方法</u>が加わりややこしくなります。中世頃から、高音域を演奏することと使う楽器を、ラテン語でClarion, 伊語でClarinoと呼ぶようになります。これはTrumpetの別名となります。例えば、MozartのRequiemやBeethovenの交響曲第9番では、Trumpetパートは Trumpet 等でなくClarinoと書かれています。

Mozartの時代に実用化になった木管のクラリネット(Clarinetto)は、高音域は明るく開放的な音色で「遠くで聴くClarinoの音色に似ている」という理由で、Clarinoの語尾に小さい物を指す“指小辞”の-ettoを付けてClarinettoとなります。

これはよく間違えます。Clarino(トランペット)の譜面が見あたらない時は、まずClarinetto(クラリネット)の譜面袋の中を確かめると、出てくる確率大です。

4.イングリッシュホルン

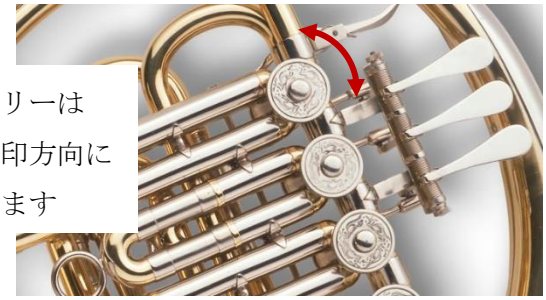
ドヴォルザークの交響曲第9番「新世界より」の第2楽章のSoloでお馴染みの楽器、英語でEnglish hornです。翻訳すると「英国のホルン」ですが、英国には全く無関係な楽器です。この楽器の名前はフランス語の“cor anglais”から来ているのですが、解釈に間違いがあったようです。この楽器の祖先にあたる、古楽器のoboe da caccia (狩りのオーボエ)は楽器が長い為、演奏しやすくするために、楽器が曲がった形をしていました。そこで、角度の付いた(anglé)ホルン(Cor)と呼ばれました。これを英語に直す時に間違って解釈し、そのまま、英国のホルンと呼ばれています。

5.フレンチホルン

金管のホルンを英語でfrench hornと呼ぶことがあり、日本語でも、フレンチホルンと呼ぶことがあります。フランスで開発された経緯からこのように呼びます。次の写真のホルンは1840年頃に製作されたピストンを採用した初期のフランス製のホルンです。この方式を考案して実用化したのはフランスです。

ピストンは矢印方向に動きます

この様なホルンならば、フランス式バルブ付きホルンから「フレンチホルン」と呼んでも間違いではありませんが、これは初期の話です。現在のホルンで使われているバルブは、次の写真のようにロータリー方式のバルブです。これはドイツで開発されたドイツ方式です。



一般的にホルンと呼びます。イタリア語ではcorno コルノと呼びます。

ピストンとロータリ方式

ホルンのバルブにフランス式のピストンでなく、ドイツ式のロータリーバルブを使う様になったのには理由があります。ピストン方式のバルブは簡単な仕組みで使い易いのですが、切り替えの為に動く部品(ピストン)が長くなります。これに比べるとロータリー方式のバルブは、指で押して上下に動くキーの動きを90度の回転に置き換えるという、複雑な動きがある為、精巧な作りが求められますが、切り替えの為に動く部品(ロータリー)は小さな部品で済みます。ホルンの様に複雑な切り替えを必要とする楽器や、チューバの様に管が太く重くなる楽器にはロータリー方式を使います。

木管のホルン　先ほどのイングリッシュホルン、クラリネット属のバセットホルン(Corno di bassetto)のように木管楽器のホルンもあります。
Cornoは角笛という意味で、
木管楽器でもベルが付いています。

6. 弦楽器の名前

イタリア語では、ビオラ Violaが弦楽器の中心です。
バイオリンは、小さいビオラでViola +ino = Violino
コントラバスは大きなビオラでViola +one = Violone
となります。

チェロは大きなビオラ(Violone)の小さな(+cello)楽器で、Violone +cello =Violoncello となります。
各弦楽器の2文字の省略形は、ViolinがVn., ViolaがVa., ViolonceloがVc., ContrabassがCb.となります。

7. 金管楽器の名前

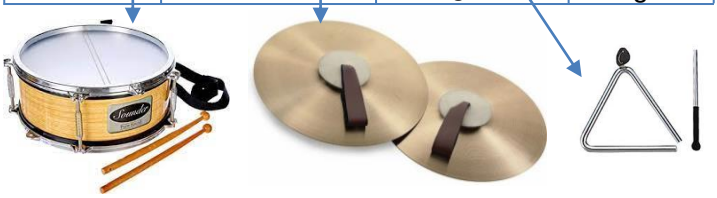
英語	独語	仏語	伊語
horn	Horn	Cor d'harmonie	corno
trumpet	Trompete	trompette	tromba
cornet	Kornett	Cornet à pistons	cornetta
trombone	Posaune	trombone	trombone
tuba	Tuba	tuba	tuba

楽器の名前に出てくるイタリア語の語尾変化

指小辞は +ino, +ettoなど、指大辞 +one があります。
小さなホルン corno +etta = cornetta コルネット
大きなトランペット tromba + one = trombone トロンボーンとなります。

8. 打楽器

英語	独語	仏語	伊語
timpani	Pauken	timbales	timpani
bass drum	Große Trommel	grosse caisse	grancassa
snare drum	Kleine Trommel	caisse claire	rullante
cymbal	Becken	cymbale	piatti
triangle	Triangel	Triangle	triangolo



ここに上げた打楽器は多くの管弦楽曲に使われている代表的な打楽器群、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、シンバル、トライアングルです。この他にも多くあります。有名な所では、ルロイ・アンダーソンのタイプライター、サンドペーパー、ソリ鈴、鞭、拳銃、大砲、雷、風の音、マーラーは交響曲第6番の中で、カウベル、教会の鐘、床を叩くハンマーを打楽器に採用しています。更に鉄琴、木琴、ピアノ、チェンバロ、オルガンなどの鍵盤楽器も含めます。